神奈川県

平成 27・28 年度研究

〈小・中学校〉

「道徳教育の充実」を目指した

道徳科の授業づくり

実践事例集

神奈川県立総合教育センター

はじめに

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代が到来したと言われています。児童・生徒には、変化を前向きに受け止め、よりよく生きていくためにはどうすればよいかを、自ら考え、実践できる力が必要となります。

平成 27 年３月に、学校教育法施行規則及び学習指導要領の一部が改正され、「特別の教科 道徳」が教育課程に位置付けられました。そして、平成 27 年４月から移行措置として、その一部又は全部を実施することが可能となり、小学校で平成 30 年度から、中学校で平成 31 年度から全面実施されます。

道徳教育が重要視される背景として、いじめや偏見、差別などによる痛ましい事件が繰り返されていることが挙げられています。また、現実の困難な問題に、児童・生徒が主体的に対処できる、実効性ある力を育成していくためにも、道徳教育によって、よりよく生きるための道徳性を養うことが強く求められています。

神奈川県立総合教育センターでは、道徳教育の充実のために、平成 27 年度から２年間、「道徳教育の充実に関する研究」に取り組みました。特に、道徳教育の要である「特別の教科　道徳」の授業を充実させることを目指し、授業の方策について研究してきました。そして、研究において整理した方策を基に行った授業について、分析・検証しました。

本冊子では、小学校第６学年と中学校第１学年の実践事例を掲載しています。各学校において、「特別の教科　道徳」の授業づくりや授業改善を行う際の参考として、本冊子を御活用いただければ幸いです。

平成 29 年３月

神奈川県立総合教育センター
所　長　　北村　公一

目　　次

はじめに
目次
本冊子の目的と構成

第１章　「特別の教科　道徳」とは
　１　これまでの道徳教育の課題と改善の方向性　・・・・・・・1
　２　道徳科の授業の質的転換　・・・・・・・3
　３　「考え、議論する道徳」の授業とは　・・・・・・・5
　４　質の高い多様な指導方法とは　・・・・・・・6

第２章　求められる道徳科の授業
　１　道徳科の授業の方策　・・・・・・・7
　２　道徳科の評価　・・・・・・・9

第３章　授業実践事例
　１　授業のねらいの明確な設定　・・・・・・・11
　２　小学校の実践　・・・・・・・13
　　Ａ小学校の実践　・・・・・・・14
　　Ｂ小学校の実践　・・・・・・・19
　３　中学校の実践　・・・・・・・24
　　Ｃ中学校の実践　・・・・・・・25
　　Ｄ中学校の実践　・・・・・・・30

第４章　道徳科の授業の質的転換に向けて
　１　授業実践の考察と研究の成果　・・・・・・・35
　２　今後の課題　・・・・・・・36

引用文献・参考文献　・・・・・・・37
作成関係者

本冊子の目的と構成

本冊子の目的

本冊子は、小・中学校の道徳教育の充実を図るため、その要となる「特別の教科　道徳」の授業の方策について整理し、授業実践事例をまとめます。そして、すべての教職員が、「特別の教科　道徳」について考え、現在求められている授業の実現に資することを目的とします。

本冊子の構成

第1章 「特別の教科　道徳」とは

これまで行われていた「道徳の時間」の課題を整理し、現在求められている「特別の教科　道徳」の授業の在り方を示します。

第2章　求められる道徳科の授業

現在求められている「特別の教科　道徳」の授業の方策や評価について示します。

第3章　授業実践事例

小学校第６学年（２校）と中学校第１学年（２校）の授業実践事例を紹介します。

第4章　道徳科の授業の質的転換に向けて

授業実践の考察と、研究の成果と課題を示します。

※　「特別の教科　道徳」を、本冊子では「道徳科」とします。

第1章 「特別の教科　道徳」とは

1　これまでの道徳教育の課題と改善の方向性

「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」には、道徳教育の重点目標を設定し、充実した指導を重ね、確固たる成果を上げている学校がある一方で、多くの課題もあると指摘されています。

【量的課題】「道徳の時間」の授業が適切に実施されていないという課題

「歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科に比べて軽んじられていること」などの課題が挙げられています。

「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」

↓

道徳の教科化

道徳の教科化により、教科用図書の使用と評価（いわゆる、記録に残す評価）が実施され、他教科と同様に、年間指導計画に沿って、効果的に資質・能力を育成することができると考えられます。

道徳の教科化が量的課題の改善の方向性を示しているといえます。

他の教科と同じように道徳科も進めればよさそうだね。

【質的課題】充実した「道徳の時間」の授業が実施されていないという課題

「主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導」などが行われているという課題が指摘されています。

「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」

「道徳教育の目指す理念が関係者に共有されていない」、「教員の指導力が十分でなく、道徳の時間に何を学んだかが印象に残るものになっていない」などの課題が指摘されています。

「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）」

道徳科の授業の質的転換

道徳教育の目指す理念の共有のために、道徳教育の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」とはどのようなことなのかを理解することが大切です。そして、道徳性を養う道徳科の授業への質的転換を図るため、質の高い多様な指導方法の確立と評価の工夫・改善を行う必要があります。

どんな道徳科の授業をしたらいいかな。

２　道徳科の授業の質的転換

【道徳科の目標】

道徳教育の目標は、「よりよく生きるための道徳性を養う」ことです。道徳教育の要である道徳科においても同様です。

『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』

第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う**ため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』

第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う**ため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

※　網掛けの部分は、小学校と中学校の違い

※　網掛け、太字、下線は筆者

道徳科では、**道徳的諸価値についての理解（☆１）**を基に、
自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることで、
自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習（☆２）を行い、
道徳性（道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度）を育てます。

道徳科の授業は、「道徳性を養う」ための学習活動を具体化したものです。

☆1　道徳的諸価値についての理解

「道徳的諸価値」とは、「道徳的価値」が複数集まったものと捉えます。「道徳的価値」については、次のように整理されています。

「道徳的価値」とは…

> 道徳的価値とは，よりよく生きるために必要とされるものであり，人間としての在り方や生き方の礎となるものである。

『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』
『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』

☆2　生き方についての考えを深める学習

道徳的価値についての理解を基に、小学校では、「自己の生き方」について、中学校では「人間としての生き方」について、考えを深める学習を行います。

〈自己の生き方についての考えを深める〉

自己の生き方を考えるためには、**「自己を見つめる」**ことが大切です。

「自己を見つめる」とは…

> これまでの自分の経験やそのときの考え方，感じ方と照らし合わせながら，更に考えを深めることである。

『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』

〈人間としての生き方についての考えを深める〉

「人間としての生き方についての自覚は，人間とは何かということについての探求とともに深められるものである」と述べられています。

> 人間についての深い理解なしに，生き方についての深い自覚が生まれるはずはないのである。

『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』

自己を見つめることで、自分の成長を実感して、
これからの課題や目標を見付けることができます。

児童・生徒が自分自身を具体的状況において、
より深く見つめることが大切です。

３「考え、議論する道徳」の授業とは

次のような疑問や不安を持っている先生方はいませんか。

「考え、議論する道徳」の授業ってどんな授業をすればいいの？

小学校低学年で議論できるの？

クラスの雰囲気が険悪にならない？

今、道徳で求められている「考え、議論する道徳」の授業とは、どのような授業なのでしょうか。「考え、議論する道徳」を「考える」と「議論する」に分けて表します。

「考える」とは	「議論する」とは
児童・生徒が主体的に自分との関わりの中で考えること	児童・生徒が多様な考え方、感じ方に出合い、交流すること
自分の考え方や感じ方に気付く	自分の考え方や感じ方を明確にする

児童・生徒に「自分ならどのように行動・実践するか」などを考えさせた後、自分とは異なる意見と向かい合いながら議論させます。

意見を戦わせ、相手を言い負かすことが、「議論する」ということではないんだね。

児童・生徒の実態に合わせて、考えさせ、議論させる授業をしたいな。

４　質の高い多様な指導方法とは

道徳科の質の高い多様な指導方法の特長については、「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」において、次のように示されています。

①　読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

②　問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

③　道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」

ここで示された三つの指導方法の特長は、ねらいを実現するための例示に過ぎず、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。重要なことは、**指導する教員一人ひとりが、学習指導要領の趣旨を把握し、学校や児童・生徒の実態を踏まえて、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択すること**です。

第２章　求められる道徳科の授業

１　道徳科の授業の方策

道徳科の授業の方策や指導方法の視点を、次の三つに整理しました。

Ⅰ　授業のねらいの明確な設定
Ⅱ　教材の吟味
Ⅲ　発問の吟味

Ⅰ　授業のねらいの明確な設定

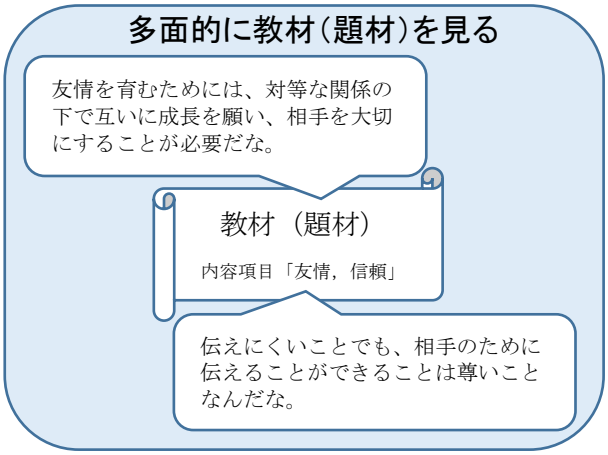
一単位時間の授業のねらいの明確な設定のためには、次の二つのことを明確にするとよいと考えます。

- ○　道徳科で育成すべき資質･能力である「道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度」のどれに重点を置くのかを明確にすること
- ○　内容項目の何に重点を置くのかを明確にすること

内容項目の多くが、例えば「友情，信頼」のように複数の要素で一つの項目として構成されています。二つの要素は、相互に深く関わり合うことから一つの内容項目になっていますが、児童・生徒の実態と照らし合わせ、「どの部分が不足しているか」、「何をさらに深めるとよいか」などを考え、重点を置くべき要素を捉えることでねらいが明確になります。

Ⅱ　教材の吟味　※ 本冊子では、読み物教材を取り上げています。

読み物教材には、その内容を多面的に捉えることにより、複数の道徳的課題を見いだすことができるものが多くあります。教材の内容を多面的に吟味し、児童・生徒の実態に合わせて活用しましょう。



Ⅲ　発問の吟味

授業のねらいを明確にし、教材を吟味し、そして発問の内容を吟味します。次の二つの視点で捉えます。

○「発問の場面」いつ発問するのか
○「発問の内容」どのような発問をするのか

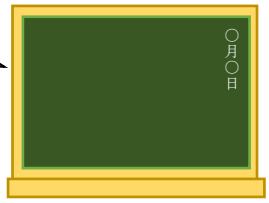
そして、「発問の場面」と「発問の内容」を合わせて一単位時間の授業の構成を考えます。

（例）

導　入：どの児童・生徒にも答えさせやすい発問
展開1：教材の中の道徳的価値に迫らせる発問
展開2：自分事として考えさせる発問
終　末：児童・生徒自身の振り返りを促す発問

一単位時間の大まかな流れを捉えた後、ねらいに迫るための発問（中心発問）を、いつ、どのように行えばよいかを考え、発問からどのような児童・生徒の言葉を引き出したいかを明確にします。なお、児童・生徒から多様な考えを引き出すには、**教員が多様な発問を準備することが大切**です。そして、発問をするときには、児童・生徒の思考を誘導する発問とならないように注意する必要があります。

板書計画と合わせて発問を考えると、一単位時間の授業の流れが考えやすくなります。



２ 道徳科の評価

道徳科の評価については、「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）【概要】」で、次のように整理されています。

≪道徳科の指導方法≫

○　単なる話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく道徳科の質的転換を図るためには、学校や児童生徒の実態に応じて、問題解決的な学習など質の高い多様な指導方法を展開することが必要。

≪道徳科における評価の在り方≫

【道徳科における評価の基本的な考え方】

○　道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、

- 数値による評価ではなく、記述式とすること、
- 個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること、
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（※）として行うこと、
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること、
- 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

が求められる。

※個人内評価…児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

児童・生徒一人ひとりが、いかに成長したかを積極的に受け止め、一定のまとまりの中で見取り、評価します。しかし、大くくりなまとまりで一年間の児童・生徒の変化を見取るのは難しいことです。そこで、**一単位時間の授業の中での変容を見取り、それを蓄積していくことが重要になります。**児童・生徒の一単位時間の中での変容を受け止めて認め、励ます評価を行い、指導にいかしていきます。

評価とは…

児童・生徒が自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものです。また、教員の側から見れば、目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。

【道徳科の評価の方向性】

○　指導要録においては当面、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、

・　他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

（自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等）

・　多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

（読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等）

といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する、といった改善を図ることが妥当。

○　評価に当たっては、児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり、１回１回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、年間３５時間の授業という長い期間で見取ったりするなどの工夫が必要。

○　道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要。

≪発達障害等のある児童生徒への必要な配慮≫

○　児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要。

≪条件整備≫

○　国や教育委員会等において、多様な指導方法の確立や評価の工夫･改善のために必要な条件を例示。

「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）【概要】」

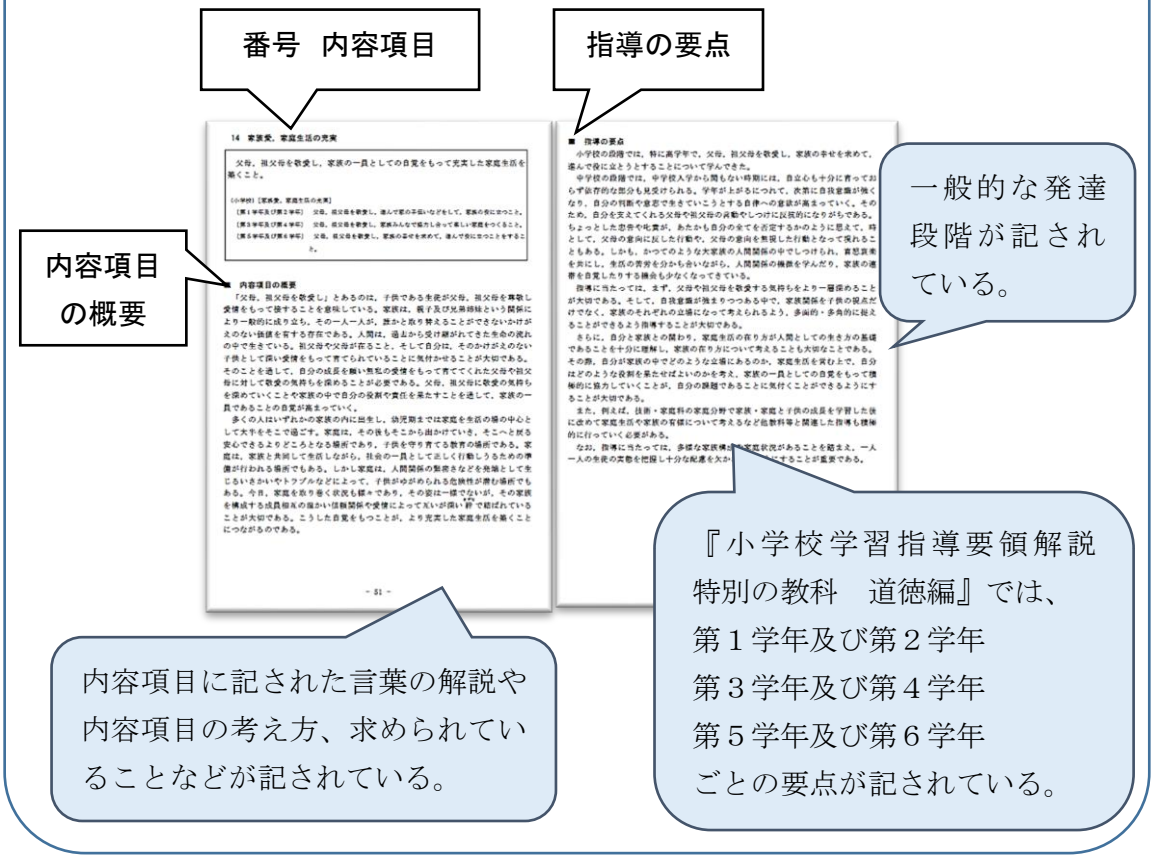
第3章　授業実践事例

1　授業のねらいの明確な設定

『学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』の「内容項目」、「内容項目の概要」、「指導の要点」には、その内容項目で捉えさせたい道徳的価値やどのような力を児童・生徒に身に付けさせることが求められているかが書かれています。

授業のねらいを明確に設定するためには、一単位時間の道徳科の授業で取り扱う内容項目への理解を深めることが大切です。さらに、内容項目の言葉の意味を理解し、児童・生徒に何を考えさせるのか、どのような道徳的実践につなげたいのかを考えることが大切です。

『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』の内容項目のページ（例）



本冊子では、『私たちの道徳』（※）の読み物教材から、「人間をつくる道ー剣道ー」（小学校）と「一冊のノート」（中学校）の実践事例を示しています。

【小学校の実践】(p.13～)

内容項目「17 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」
（第５学年及び第６学年）

我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと。

【内容項目の概要】	【指導の要点】第5学年及び第6学年
◇ 郷土 ◇ 我が国や郷土の伝統を継承する ◇ 我が国や郷土の伝統と文化を大切にする心 ◇ 内容項目に規定している「我が国」や「国」	（前略）　指導に当たっては，機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり，直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。　（後略）

『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』

【中学校の実践】(p.24～)

内容項目「14 家族愛，家庭生活の充実」

父母，祖父母を敬愛し，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

【内容項目の概要】	【指導の要点】
◇ 父母，祖父母を敬愛する ◇ 過去から受け継がれてきた生命 ◇ 家族の一員としての自覚 ◇ 家庭についての今日的な課題	（前略）　指導に当たっては，まず，父母や祖父母を敬愛する気持ちをより一層深めることが大切である。そして，自我意識が強まりつつある中で，家族関係を子供の視点だけでなく，家族のそれぞれの立場になって考えられるよう，多面的・多角的に捉えることができるよう指導することが大切である。　（後略）

『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』

※ 『私たちの道徳』は、児童・生徒が「道徳的価値について自ら考え，実際に行動できるようになることをねらいとして作成した道徳教育用教材」で、全国の小・中学校に配布されています。

２　小学校の実践

【学年】

第６学年

【内容項目】

17 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

【題材名（教材名）】

「人間をつくる道－剣道－」　『私たちの道徳』（小学校五・六年）

【あらすじ】

３年間、剣道を続けている主人公の僕は、礼の仕方を厳しく指導されることに疑問を抱きながらも、稽古に励んでいた。初めての試合の日、僕は勝てるだろうと思っていたが負けてしまう。ふてくされた態度で剣道の試合の最後の礼である引き上げをしたところ、先生に厳しく注意される。その後、僕は、大人の試合を見て、負けてしまった大人の礼の美しさに気付く。数日後、礼の大切さについて先生から話を聞き、日本人が大切にしてきたことを受け継ぐことについて考える。

A 小学校の実践

(1) 指導案

1　ねらい

・古くから受け継がれている我が国の伝統や文化が、明日からの人々の生き方にもいかされていくものであることを知る。

・先人の思いのつまった伝統を受け継いでいくことは、自分自身や我が国の未来につながる誇り高いものであることに気付き心が動く。**（道徳的心情）**

2　主題設定の理由

(1)ねらいとする内容項目について

私たちの生活の中には、国や郷土に住む人々によって受け継がれてきた慣習や考え方、制度や技術等がある。それは先人たちの「よく生きたい」とする心が、自然的・社会的・歴史的条件をいかして独自に作り上げてきたものである。これらのことに児童はあまり馴染みがないが、まず知ることから始め、先人の努力によって今日まで慣習などが継承されてきたことに気付かせる。

そして、自らも郷土の伝統や文化の影響を受けて成長し、明日からもその影響を受けて生活していくことに気付かせる。伝統や文化への理解が深まれば、それを受け継ぎ、大切にしようとする心が沸き上がってくると考える。外から強要されるものではなく、児童の内面から自然に沸き上がってくるように指導したい。

(2)児童の実態と授業者の願いについて

多くの児童は、オリンピックなどの各国の代表選手で競うスポーツで、相手や審判に対して敬意を払い、試合の始めと終わりには礼儀を重んじ、共に称え合い、握手を交わす姿を見ている。特にスポーツ等をしている児童は、自らもそれを経験している。そして、その素晴らしさにおいてさらに抜きんでているのが、日本の「道」ではないだろうか。剣道、柔道、合気道、空手道などの武道を始め、茶道、華道、書道等は、技を磨くばかりでなく礼儀作法を重んじ、「道」を追求していくものである。総じて「礼で始まり、礼で終わる」という意識が皆に根付いている。

この「道」というものを、具体的に体験している児童もいるが、人数は多くない（「道」がつく習い事をしている児童は、書道が最も多く７名）。そこで本時では、「道」という言葉をキーワードの一つにして「『人間をつくる道』とは何か」を考える。「道」が何であるかを考え、その「道」を具体的に進んでいくことによって、よりよい明日、よりよい未来へつながるように努力していこうとする態度を育てる。自分がどんな状況でも、相手を敬い、尊重するという日本人が昔から大切にしてきた精神を育んでいきたい。

(3)資料について

本資料は日本の伝統的な武道の一つである剣道を題材にしたものである。剣道をきっかけにして、日本の伝統や文化について考えさせることができる。

３ 本時の流れ

□は、発問　▣は、中心発問　◎は、評価（見取り）の視点

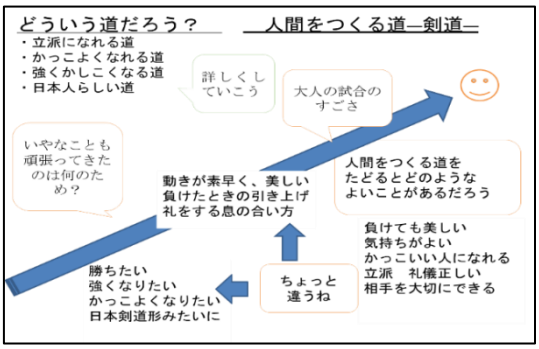
	○児童の学習活動　・想定される児童の反応	・教師の指導援助と指導上の留意点
導入	○前時の学習を振り返る。	・前時（日本の伝統）を振り返ることのできる模造紙を用意する。
	「人間をつくる道」って何だろう。	
	・立派になれる道 ・かっこよくなれる道 ・思いやりのある人になれる道	・考えるきっかけを作り、子どもたちの「考えたい」という意欲を大切にして課題意識を持たせる。
展開	○資料を読んで考える。	・教師が範読する。 ・人間をつくる道とは何かという視点で読ませる。
	これだけ嫌なことも頑張ってやってきたのは何のためだろう。	
	・勝てるようになりたい（強くなりたい）。 ・かっこいい「日本剣道形」をしたい。 ・かっこいい剣士になりたい。	・場面を整理し状況を把握させる。 ・教師も児童も、共に話し合う空間を作り出す。
	大人の試合のすごさはどこだろう。	
	・動きが素早いこと。 ・試合に負けた方の引き上げが美しいこと。 ・礼をする二人の息が合っていること。	・補助発問を設定しておく。 ・資料が唯一のよりどころとならなくてもよいことを伝える。 【補助発問】 大人の試合を見て、僕の考えはどのように変わりましたか。
	「人間をつくる道」をたどると、どのようなよいことがあるだろう。	
	・重かった防具が軽く感じるくらい、気持ちよい。 ・負けて悔しくても美しい。 ・レベルアップしてかっこいい人になれる。 ・日本のよさが世界にアピールできる。 ・自分がどんな状況でも立派にできる。 ・礼儀正しく優しい心が身に付く。	・よさに向かう問い掛けをする。 ・気持ちがプラスに向かうようにする。 ・伝統文化にも、日本人が大切にしている思いや願いがあるのではないかという見方を大切にする。
	今日の学習で学んだことや、今までの生活を振り返って、 これからの生活にいかしていきたいことを書こう。	
内省	○今日の学習で何を学んだのかを書く。	◎日本の伝統文化に受け継がれ、日本人が大切にしてきた思いに気付き、自分もまた大切にしようとしている。〈ノート〉 ・行動できるようになることを最終的な目標とする。 ・価値に迫れるよう、意図的指名で発言させる。
終末	○教師の日本の文化に関わる話を聞く。	

(2) 道徳科の授業の方策

〈板書〉

○ 板書計画

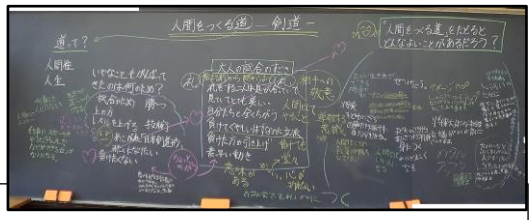
授業前に板書計画を立て、児童の思考の流れを想定しながら、発問を考えています。初めに中心発問を記します。そして、授業者が何を発問するのか、その発問に対する児童の反応はどのようなものかを考えて設定します。

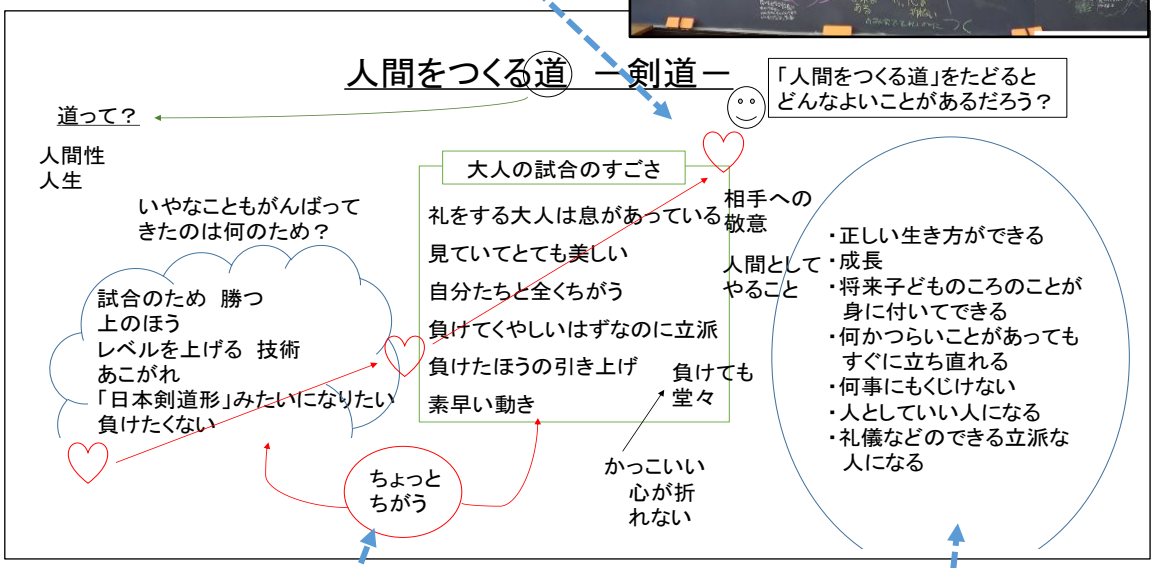


○ 本時の板書

児童の意見を分類し、比較する板書にしています。

主人公である僕の気持ちの高まりと、児童自身の気持ちの高まりが分かる板書になっています。





主人公の僕が「いやなことも頑張ってきた理由」と「大人の試合のすごさ」について比較しています。理想とする自分の姿（嫌なことも頑張ってきた理由）と実際にすごいと思う大人の姿にずれを生じさせることで、大切にしたいことは何かを考えさせることができました。

中心発問を記した下部には、空白を作り、児童が考えを広げて、授業の終末に黒板に書き込めるようにしました。
（記述は一部抜粋）

〈発問〉 問い返しの引き出し集

授業づくりで、21 個の発問を用意しています。その際、発問を四つのカテゴリーに分け、「問い返しの引き出し集」として整理しています。カテゴリーに分けることで、一単位時間の児童の思考の流れが授業者にも捉えやすくなります。

また、事前に発問を複数用意することで、児童の様々な思考の流れに合わせて、問い返しの発問をすることができます。このことにより、本時のねらいの軸がぶれることなく、中心発問につなげることができました。

主人公の心情や考えを明らかにする【主として**「多面的」**な思考】

主人公に自分を重ねる

（共感的）

【僕の思いを通して、伝統や文化を大切にすることについて考える発問】

・厳しい稽古に励んでいるとき、僕はどのような思いだったか。
・「これだけ嫌なことも頑張ってやってきた」のは何のためだろう。
・いつもとても重かった防具が、心なしか軽く感じられたのは、僕にどのような思いが芽生えたからだろう。
・剣道のどういうところがかっこいいのかな。

（分析的）

・「人間をつくる道」をたどっていくと、どのような世界が見えてくるだろう。
・大人の試合と僕の試合の違いは何だろう。
・大人の試合を見ながら、僕はどのようなことを考えていたのだろう。
・大人の試合を見て、僕の考えはどのように変わったか。
・剣道を始めたきっかけは何だろう。
・先生は、どのような思いで「剣道は、人間をつくる道」と言ったのだろう。
・大人の試合のすごさとは何だろう。
・日本人が大切にしてきたことって何だろう。
・見苦しい引き上げって何だろう。

（投影的）

【伝統や文化に気付かせる発問】

・166～169 ページを読み、日本に古くから伝わる伝統や文化について、自分がどのように関わってきたか。
・「礼に始まり、礼に終わる」聞いたことある人？どういうときに？どういう意味？
・伝統文化には、日本人のどんな思いが込められていると思うか。
・「人間をつくる道」という言葉を先生から聞いて、僕はどのようなことを考えたか。

（批判的）

・僕はとにかく強くなりたいんだよね。
・先生はいったい何を怒っているのだろう。
・何でこんなに礼にこだわるんだろう。
・外国の人はあんまりしないよね。なぜ日本人はするのだろう。

主人公を客観的に見る

自分自身の気持ちや考えを持ち意識する【主として**「多角的」**な思考】
【自分自身を振り返らせる（内省）発問】

〈ポイントとなる発問〉【 】はつぶやき ※は行動 （T は授業者、C は児童）

本時の導入の部分です。前時に、日本の伝統について授業を行っています。

T	:茶道は、（ほとんどの児童は）保育園でやっていたんだよね。それも考えて…、**ここに題名で「人間をつくる道」ってあるけど、この「道」って何だろう（☆1）。**
C1	:武道、華道、書道、武道って「道」が付いているから、武道とか書道とかで人間性をつくる…。
T	:人間性をつくる…。（※板書）もうちょっと同じ質問をします。はい、C２さん。
C2	:人生だと思う。
T	:人生…。人生を進むと人間がつくられるのかな。他の人はどうですか。…同じ？人間性だと思う人。
C	:※数人挙手
T	:人生そのものだと思う人。
C	:※挙手
T	:なんかぼんやりしてない？その人生は見えていますか？なんかぼんやりしているね。
C	:【見えてない。】
C	:※周りの児童と「道」とは何かを話し始める。分からないという表情。
T	:**よく分からないね。**
C	:うん。
T	:**よく分からないから、そこをみんなで考えていこうっていうことだよ（☆2）。**

☆1　導入で本時のねらいとなる発問を投げかけることで、ねらいを軸に授業を進めることにつながりました。

☆2　授業者のこの言葉により、児童は、道徳科は分かり切ったことを考えたり、発言したりする時間ではないということを理解しました。

〈評価〉

〈評価の視点〉

・内容項目をいかに理解したか。
・自分が持っているよい心に気付いたか。
・友だちの考えを自らの考えに取り入れていたか。
・これからの生き方につなげていこうとする意志を持てたか。

〈ノートの記述からの見取り〉

私のこれからいかしたいことは、あいさつや感謝の気持ちです。バスケの試合も相手がいないとできないので、どのスポーツもやっぱり感謝の気持ち・敬意を忘れないで、これからもバスケを続けていきたいです。（後略）

剣道の礼を感謝の気持ちにつなげ、これからの生活にいかしていこうとする意欲が表れていることが評価できます。

B小学校の実践

(1) 指導案

1　ねらい

・礼の価値や意味について考え、理解する。

・代表的な日本らしさの一つである礼のよさを感じる。

・これからは、もっと気持ちを込めて礼をしたいと意欲を持つとともに、礼以外の日本らしさを見つけ、大切に受け継いでいこうとする。**（道徳的実践意欲と態度）**

2　主題設定の理由

(1)ねらいとする内容項目について

伝統や文化の内容項目では、次のような要点を押さえることが重要だと考えられる。

① 国や郷土の伝統や文化を知り、それらの価値や意味を考え、深く理解すること

② 伝統や文化と、自分との関係を重ねて考え、自分は国や郷土の伝統や文化の影響を受けて育っていることを認識すること

③ 国や郷土の伝統や文化に親しむこと

特に、国や郷土の伝統や文化が、自分という人間を育ててきたという事実を知ることが大切である。そうすることによって、児童・生徒は、国や郷土の伝統や文化が、今後の自分の心の底に脈々と流れることを自覚するだろう。また、親しみながら学ぶことで、その伝統や文化を愛し、大切に受け継ぎ、次の人々へ継承していこうとする心が育つだろう。親しみながら学ぶためには、郷土のいろいろな行事に参加してそれを直接体験し学ぶことも大切であり、学校と家庭・地域との連携が重要である。

(2)児童の実態と授業者の願いについて

本学級は、心を開き、毎日生き生きと生活している児童が多い一方、礼儀を重んじている児童は少ない。教員などの大人に対して反抗的ではないが、失礼な言動があったり、礼儀正しい所作に欠けたりすることがある。特に、毎日のあいさつの時に、しっかりと礼をしない児童は多い。しかし、「しっかりと礼をしなさい」と半ば命令するような形で指導をしても、特定の人の前でのみしっかり礼をする児童に育ち、効果的ではないと考える。本時の授業を通して、「なぜ礼をするのか」という礼の意味や価値について考え、深く理解させていきたい。さらに礼のよさを感じさせることで、礼をしっかりしようという意欲を持たせたい。

また、他の日本らしさについても思考を広げることによって、今まで身の周りにあったが気付かなかった伝統や文化を、多面的・多角的に捉える視点も与えていく。

(3)資料について

本資料は、日本らしさの一つである礼の大切さや、それを美しく立派だと感じる心が描かれている。本学級の児童にも、気付いてほしいことである。さらに、「なぜ負けた大人は、美しく立派な態度で礼ができたのか」、「礼の大切さや価値、意味は何か」を話し合わせ、多面的・多角的に考えさせることによってねらいに迫っていきたい。

３ 本時の流れ　　は、発問　　は、中心発問

	○児童の学習活動　・想定される児童の反応	・教師の指導援助と指導上の留意点
導入	○日本が自慢できることを考え、授業導入時の捉え方を確認する。	・黒板の左側に板書する。
	日本の自慢できることは何だろう。	
	・日本食　・富士山　・平和　・規律 ・ノーベル賞　・オリンピック	・児童の発言を分類し、授業の中で、問題意識や観点を持たせる。
展開	○資料を読んで話し合う。	
	負けた大人と僕の違いは何だろうか。	
	・見苦しい礼と、美しく立派な態度の礼 ・心構え	・発問と板書を連動させる。 ・比較することで、礼に含まれている価値や意味について気付かせるようにする。
	負けた大人は、負けたのになぜしっかりと礼をすることができるのだろうか。	
	・相手を敬う心、尊重する心がある。 ・思いやりの精神が深い。 ・受け継いでいるものがある。 ・先生等への感謝がある。 ・人間性が磨かれている。 ・相手への賞賛、尊敬の念がある。 ・勝敗よりも、大切にしたいものがある。	・多面的・多角的な思考を促すために、児童の発言に合わせて問い返しを行う。 【問い返し発問】 ・規則だから礼をしっかりとするのか。 ・単に経験年数が多いからか。 ・たまたまこの大人がまじめだからか。 ・どんな人間性か。 ・こういう人だからこそ続けているのか。 ・しっかりとした礼ができると今後は、どんな未来になるだろうか。
終末	○日本が自慢できることは何かを、もう一度考える。	
	今、日本が自慢できることは、授業の最初で挙げたものだろうか。	
	○これらの自慢できる日本のよさを、どうしていきたいかを考える。	・授業前後での考えの変容を確認するために、個人で考えた後に、友達と交流させる。 ・導入の考えを肯定的に意味付けする。 ・礼だけでなく、他の日本らしさについても思考を広げさせることによって、今まで身の周りにあった伝統や文化を、多面的・多角的に捉える視点を与える。

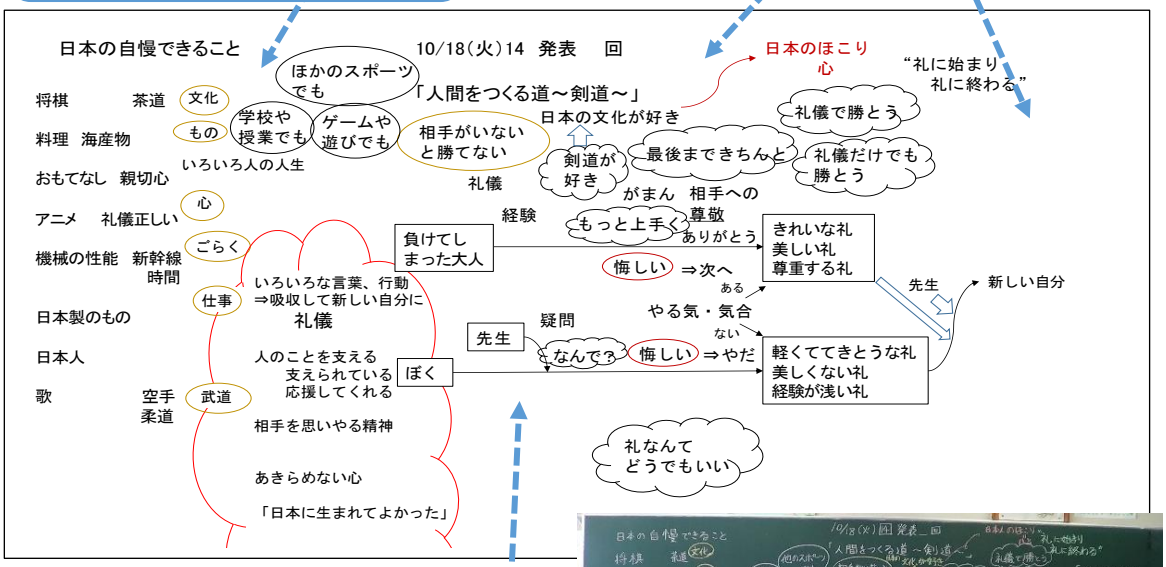
(2) 道徳科の授業の方策

〈板書〉

児童の意見を分類し、比較する板書にしています。また、児童が授業の導入で考えた「日本の自慢できること」を、授業の終末に振り返りやすいように整理しています。

記述の際には、空白を多くとり、児童の考えを書き込めるようにしています。

授業の終末に振り返りができるように整理しています。



試合に負けてしまった大人とぼくの態度の違いを上下で比較しています。

〈ポイントとなる発言：議論の場〉【 】はつぶやき ※は活動

（T は授業者、C は児童）

本時の展開の一部分です。Ｃ１の児童の発言を軸に展開しています。

C1：	（試合に負けてしまった大人について）（大人と僕）どっちが悔しいとかそういうんじゃなくて、礼をする意味とかが相手がいないと勝ち負けもつかないし、その、礼をすることの意味を分かった大人と、分かっていない僕の違いだから、（どっちが）悔しいっていうのは、別に関係ないと思う。
T ：	大人は、悔しいって気持ちもある、でもこれよりも大切にしたいものがきっとあるから、次へつなげられるし、こういう礼になる。じゃあ負けてしまった大人が、こういう悔しいって気持ちよりも大切にしたいものって何でしょうね。

C	※周りの児童同士で話し合い。
T	負けてしまった大人が大切にしているものって何だろうね。
C2	礼儀を大切にしている。
T	礼儀を大切にしている。礼儀を大切にするって…Ｃ２さんどういうことだろうね。
C2	さっきＣ１さんが言ったように相手がいないと、勝ち負けがつかないからそういう礼儀は大切にしないといけないということだと思います。
T	なるほどね。他どうですか。Ｃ３さん。
C3	僕も、Ｃ１さんと同じで、相手を敬うとか…。
T	相手を敬う尊敬する。
C4	日本の文化を守る。
T	日本の文化を守る、というと？
C4	えっと、剣道が好きっていう気持ちが強くて、剣道じゃなくて、日本の文化だと思う。「剣道が好き」からレベルアップして日本の文化が好き。
T	この剣道にとどまることなく、日本の文化が好きにまでなっているんじゃないか。Ｃ５さんは、どう思いますか。
C5	**C4さんの意見を僕なりに解釈して、日本人としての誇り。**
T	ほう。日本人としての誇りって、何だろう。
C6	【誇り？】
C5	**心とかそういう、人を敬う気持ちとか、剣道っていう日本の…日本発祥のもの…。**
T	なるほど。付け足しがある人。Ｃ７さん。
C7	礼儀っていうことで、えっと後ろの方に僕の先生が「剣道は礼に始まり、礼に終わる」って言っているから、この言葉を大人は理解して大切にしているんじゃないかなと思います。
T	ほうほう。この日本人の心や誇りの中に、礼儀っていうのはあって、それが日本の文化になっている。で、それが、「礼に始まり礼に終わる」という言葉に表れている。なるほどね。Ｃ５さん。
C5	**日本人の誇りの中に、日本人でよかったということがあるから、「礼に始まり礼に終わる」の意味があると思う。**
C1	**【なんで日本人でよかったなの？】**※周りの児童に尋ねる。

議論では、前に発言した児童の言葉を受けて考えたことが発言されていました。また、Ｃ５の発言を受け、C1は「なんで、日本人でよかったなの？」という疑問を、周りの児童に投げ掛けます。自分の考えとの相違点があったからです。

その後、これまでの発言から授業者は「負けてしまった大人はなぜこのような礼ができたと考えたかを、自分なりの言葉で話してごらん」とグループで話す時間をつくったところ、C1 はＣ５に、発言の意図を問う姿が見られました。議論の場で求められる、自分の考えを持つことで、**自分とは異なる意見と向かい合う**ことができたことにより、児童は自分の考え方や感じ方を明確にすることができました。

〈評価〉

〈評価の視点〉

・礼の価値や意味について考え、理解したか。
・日本らしさの一つである礼のよさを感じたか。
・礼の仕方について意欲を持ったか。
・礼以外の日本らしさを見つけ、大切に受け継いでいこうとしているか。

〈ノートの記述からの見取り〉

最初は、日本の自慢できることは、a さんが言った「おもてなしと米」だと思いました。でも「剣道」の物語を読んで少し変わりました。b さんの言った言葉はいい言葉だなと思いました。「試合で負けても礼で勝つ」がいいなと思いました。

授業中に、b 児の言葉を聞くことや物語を読んで考えることで、日本の自慢できることを多面的に見ることができたことが評価できます。

私は、礼をする意味をあまり考えたことがなかったけれど、今日の授業で考えたのは、剣道の場合は、自分に時間を使ってくれて、自分を思い出のページに入れてくれてありがとう、とか感謝することの大切さが礼につながったのかなと思った。今まで意味を考えていなかったのは、子どもの頃からやっていていたからだと思った。でも、それも自慢できることだと思う。

授業中の友達の意見を聞いて考えたことで、日本の自慢できることを多面的・多角的に捉え、自分の考えにできたことが評価できます。

授業づくりのヒント

道徳科のノート指導

タイトル・主題名

導入時に考えたこと
中心発問に対する考え

友達の発言から気付いたこと等メモする

板書の写真等

振り返り
※今後の生活につなげられるとよいでしょう

ノートに記述すること（例）

児童・生徒の考えを、可視化させることが大切です。

- 授業の導入時に考えたことを書くことで、振り返りの際、児童・生徒が自身の変容に気付くことができます。
- 中心発問に対して考えたことを記入することで、ねらいに迫ることができます。
- 友達の発言から気付いたことをメモすると、多面的・多角的に物事を考えるヒントになります。
- 板書の写真を配付しノートに貼らせることで、児童・生徒の振り返りを促すことができます。

Ｂ小学校では、板書の写真をノートに貼って、授業後の振り返りを促していたよ。

３　中学校の実践

【学年】

第１学年

【内容項目】

14 家族愛，家庭生活の充実

【題材名（教材名）】

「一冊のノート」　『私たちの道徳』（中学校）

【あらすじ】

主人公の僕と祖母は一緒に暮らしている。祖母は、昔はしっかりしていたが、最近物忘れが激しくなっている。祖母が掃除をした後に物が無くなったり、お願いしていた買い物を忘れてしまったりしたことから、僕や弟の隆は激しく祖母を罵（ののし）った。

その後、探し物をしていた僕は、祖母のノートを見付け、見てはいけないと思いながら、つい引き込まれて見てしまう。そこには、祖母の震えた筆致で自分の記憶がどうにもならないもどかしさや、これから先どうなるかの不安がつづられていた。また、苦悩の中にも、家族とともに幸せな日々を過ごせることへの感謝の気持ちがあふれていた。僕はノートを読んだ後、いたたまれなくなって外に出る。すると、そこで祖母が草むしりをしていた。僕は、祖母の隣に座って、こう告げる。「おばあちゃん、きれいになったね。」祖母は、にっこりとうなずいた。

C中学校の実践

（1）指導案

1　ねらい

家族に深い愛情をもって育てられたことを自覚し、家族に対する敬愛の念を深めようとする心情を育てる。

2　主題設定の理由

（1）ねらいとする内容項目について

人間は、過去から受け継がれてきた尊い生命の流れの中で生きている。その中で、家族は、その一人ひとりが、かけがえのない存在である。祖父母や父母がいること、そして、自分はそのかけがえのない子どもとして深い愛情を持って育てられているということに気付かせることが大切である。

生徒に、自分は家族の一員であるという自覚をもたせ、無私の愛で育ててくれた父母や祖父母に対して、敬愛の気持ちを深めようとする心情を育てる。

（2）生徒の実態と授業者の願いについて

中学校１年生は、自我意識も強くなり、家族に対して依存的な部分と反抗的な部分を併せ持つ難しい時期である。家族のちょっとした言動に腹を立て、時として祖父母や父母の意に反した行動をしがちである。

今回の授業を通して、人間は、過去から受け継がれた生命の流れの中で生きていることや、祖父母や父母がいて、自分はその中でかけがえのない存在として育てられていることに気付かせたい。

さらに、自分と家族との関わり、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解したうえで、家族の一員として自覚をもって生活することの大切さに気付かせたい。

（3）資料について

祖母の「一冊のノート」を読んで、いたたまれなくなった僕の思いを捉え、「おばあちゃん、きれいになったね。」という僕の発言について考え、議論することによって、家族を大切に思う気持ちに気付き、家族の一員としての自覚をもたせることができる資料である。

※下線は筆者

授業づくりのヒント

「**(3)資料について**」の下線部のように、指導案に資料から具体的に考えさせたい内容を記入すると、授業構想がしやすくなります。□で囲むなどして抜き出して記述すると、さらに考えさせたいことを意識することができます。

３ 本時の流れ

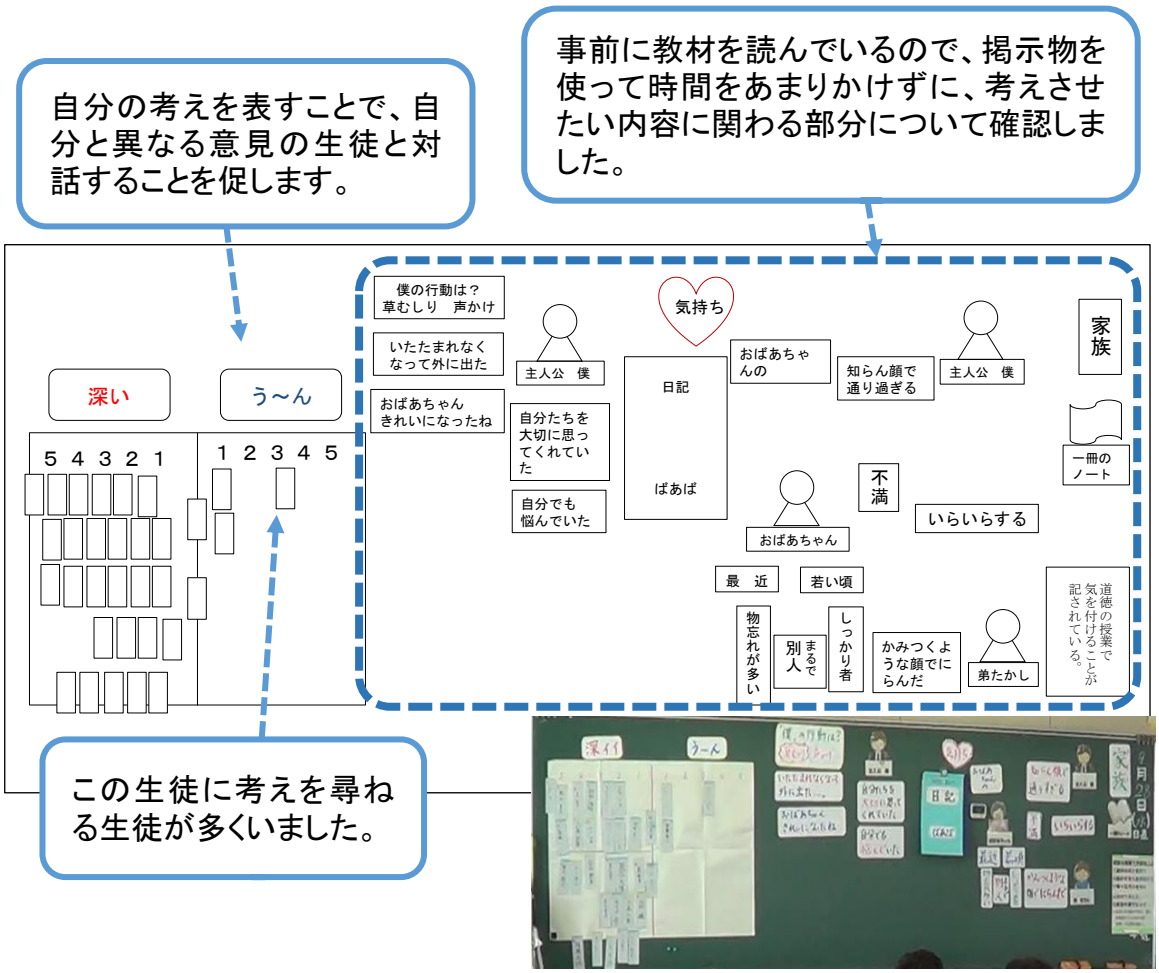
□ は、発問　▣ は、中心発問

	○生徒の学習活動　・想定される生徒の反応	・教師の指導援助と指導上の留意点
導入	最近、家族と話していますか。	
	○資料を読む。 ○授業のテーマが「家族」であることを捉える。	・ワークシートに記述した内容（「家族」について）を聞く。 ・様々な家庭環境の生徒がいることに配慮し、家族というものの捉え方が一元的にならないよう留意する。
展開	○主人公の僕や祖母などの家族の様子について確認する。	・物語の家族関係を黒板に示し、僕と祖母の関係性が分かるようにする。 ・祖母はもともとしっかりしていたことを確認できるようにする。
	いたたまれなくなって外に出た僕が、祖母に「おばあちゃん、きれいになったね。」と声を掛けたことをどう思いますか。	
	○僕と祖母のどちらに共感するかを考えて、黒板に貼った紙に名前カードを貼る。 ○他の人が貼った名前カードを見て、自分の考えを振り返る。	・画用紙に名前カードを貼らせ、他の人の意見が分かるようにする。 ・あまり長く考えさせず、すぐに貼るよう促す。
	僕の行動に肯定（又は否定）した理由を説明しましょう。	
	○自分の考えとの相違点を意識しながら、他の人の考えを聞いたり、自分の考えを話したりする。 ○相手の考えに共感したことや発見したことを付箋に書いて、画用紙に貼る。 〈肯定している生徒の反応〉 ・謝れなくても、一緒に草むしりをしたのだから、おばあちゃんにその気持ちは伝わっていると思う。 ・家族だから何でも口に出すのではなく、行動で示すことができればいいと思う。 〈否定している生徒の反応〉 ・いくら行動に表してもおばあちゃんに言葉で謝っていないのはよくない。 ・いままでさんざんおばあちゃんにひどいことを言ったのだから、きちんと謝らなくてはいけない。	・意見交流において多くの生徒の意見を聞くことができるようにする。 ・生徒の意見に賛成したり反対したりしないようにする。
終末	○授業を通して感じたことや考えたことをワークシートに記入する。 ・自分が主人公の僕の立場だったらどうしただろうか。 ・家族についてもっと考えよう。	・静かな雰囲気で記入させるようにし、自分自身の心と向き合い、家族について思いを深められるようにする。

(2) 道徳科の授業の方策

〈板書〉

家庭学習で生徒は事前に物語を読み、授業に臨んでいます。導入において、授業者と生徒が対話しながら、物語の内容を確認しました。



授業へのヒント

「道徳科の教材を、事前に読んでおくのはいいの？」

児童・生徒は、授業前に家庭学習で教材を読むことで、事前に感想や意見を持って授業に参加することができます。そのようにすることで、スムーズに考え、議論することにつながります。

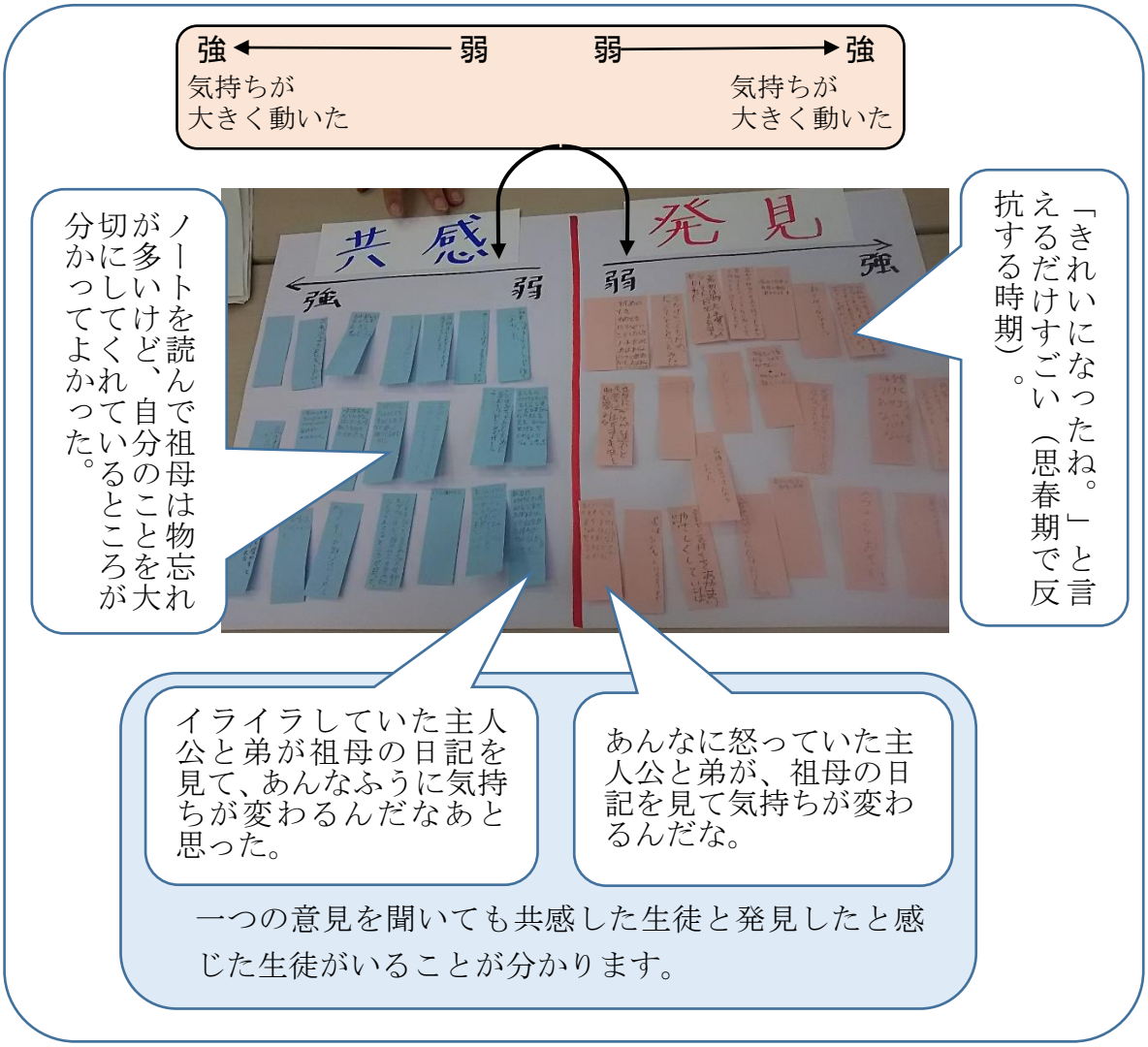
道徳科の授業は、物語の内容に感動させることだけが目的ではありません。

〈議論の場〉「発見と共感の時間」

「発見と共感の時間」とは、互いの考え方の相違点を見付け、自分とは異なる意見に対し、共感したり、これまで自分になかった考えを発見したりする時間です。

それぞれの生徒が黒板に貼った紙に名前カードを貼って、自分の考えを表明します（前ページ板書左側）。その後、教室内を自由に移動し、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりし、意見交流します。その際、相手の考えに共感したこと、新たに発見したことなどを付箋に記し、そのように感じた時の気持ちが動いた程度（弱から強）を考えて画用紙に貼ります（下図参照）。

生徒は、自分と考え方が異なる生徒と積極的に話をすることで、**自分とは異なる意見と向かい合うこと**ができていました。



〈振り返り〉 学級通信で再度振り返りを行う

学級通信を通して、道徳科の授業について発信しました。生徒の考えを記載することで、生徒は多くの考え方や感じ方に触れ、自分の考えを広げることができました。

また、学級通信を家庭に配付することで、道徳科においてどのようなことを生徒が学んでいるのかを伝え、家庭で話題として取り上げることを促しました。

〈評価〉

〈評価の視点〉

・ワークシートを書くことを通して、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができたか。

・主人公の僕の言動について考えたことを発表し、さらに、他の人の意見を聞くことで、自分の考えとの相違に気付き、家族の一員としての在り方について議論することができたか。

〈ワークシートの記述からの見取り〉

私は母親とぶつかってばかりではあるものの、仲はよいです。主人公は少しひきょうかなと考えました。何をいまさら謝ろうが、暴言や不満をぶつけている事実は変わらないと思います。

主人公の僕の行動を、自分事として捉えて考えを記述しているところが評価できます。

（前略）祖母とはよく出かけるけど、祖父と話す、会うということはあまりないので、積極的に電話やメールをしようと思いました。

自分自身の祖父母との関わり方について振り返り、今後の生活にいかそうとしているところが評価できます。

D中学校の実践

(1) 指導案

1　ねらい

家族に深い愛情をもって育てられたことを自覚し、家族に対する敬愛の念を深めようとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

2　主題設定の理由

(1)ねらいとする内容項目について

家族は最も身近な共同体であり、人間形成に欠かせない存在である。しかし、生徒は、衣食住があり安心して生活できる環境にあることから、親などへの感謝が薄いようである。また、中学校の段階では、反抗期とも重なり、親などに感謝したり家族について考えたりする機会が乏しいという現実がある。家族関係の中心には、他人を思いやるという気持ちが存在するが、生徒にそこに気付かせることで生徒自身を成長させることにつなげたい。また、家族関係がよくない場合、周囲との人間関係もうまくいかなくなることがある。家族は見事なチームプレーで構成されていて、自分はその家族の一員であるという自覚をもたせたいと考える。

(2)生徒の実態と授業者の願いについて

中学１年生で家族について考えさせることを扱うのは、主に保健体育科と家庭科である。しかし、「生まれてからこれまで、どのようにして育ったのか」や「乳幼児の特徴」などが中心で、親などの気持ちを考える機会は少ない。生徒の多くは、家族に朝起こしてもらうことや弁当を作ってもらうことが当たり前になっており、感謝の気持ちを伝える機会は少ないと思われる。このことから、親などへの感謝の気持ちを確認し、自分自身が家族の一員であると自覚するとともに、自立への第一歩を歩ませる機会となるように授業を展開していきたい。

(3)資料について

主人公である僕と物忘れの多くなってきた祖母との間に生じるトラブルと、祖母の心の奥にある思いが描かれている。その中で僕が家族の一員としての自覚を芽生えさせていく姿が描かれている。資料を通して僕と祖母の視点に立ち議論していく中で、家族の一員として自覚することが、人間として成長していくことにつながることに気付かせたい。

３ 本時の流れ

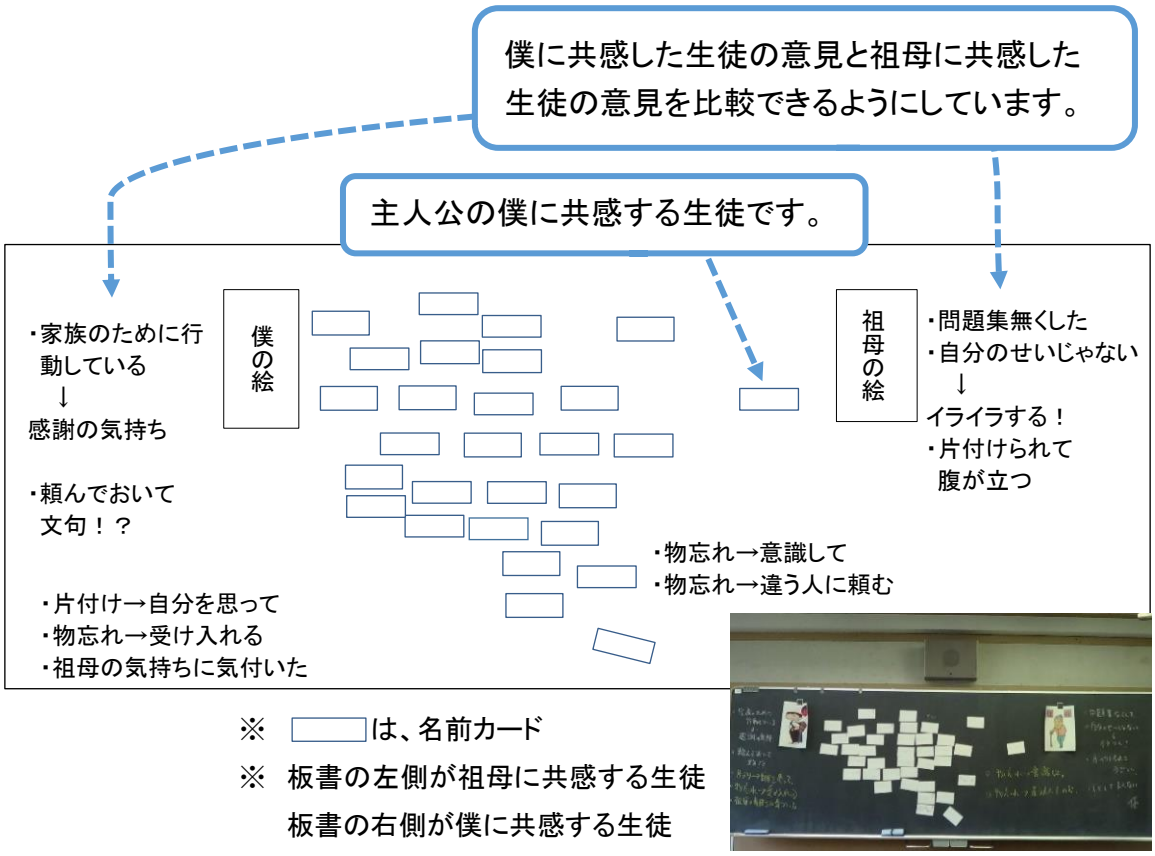
□ は、発問　▣ は、中心発問

	○生徒の学習活動	・教師の指導援助と指導上の留意点
導入	○「一冊のノート」の前半部分（祖母のノートを読む前まで）を読む。	・様々な家庭の生徒がいることを念頭に置く。
	どれくらい僕に共感しますか。	
	○僕に共感するか祖母に共感するかを考え、ワークシートに理由を記入する。 ○黒板に名前カードを貼る。	・内容の確認をして発問を行う。 ・理由を記入させた後、僕と祖母のどちらに共感するかを確認する。 ・僕の言動について、「理解できる」、「理解できるけど、よくない」、「理解できない」など整理する。
展開	○全体で「僕と祖母のどちらに共感するか」の意見を出し合う。 ○他の人の意見に対して考えたことをワークシートに記入する。 ○意見を出し合う。	・他の人の意見に対する自分の考えを、ワークシートに書く時間を確保する。 ・意見を聞いて名前カードを変更する人を聞く。
	○「一冊のノート」の後半部分（祖母のノートを読んだ後から）を読む。 ○黒板の名前カードを変更する。 ○ノートの記述を読んで、考えを変更した理由や変更しなかった理由を出し合う。	・後半部分を読み、全体で祖母のノートの記述を確認する。 ・ノートの記述を読んで、考えを変更した生徒に対して、名前カードを変更させて、理由を聞く。また、変更しなかった生徒にも理由を聞く。
	僕はこの後にどのような行動を取るべきか	
	○ワークシートに、取るべき行動を記入して全体で発表する。	
	自分は僕のようになっていないでしょうか。	
	○主人公の僕の行動を自分自身と重ねて考え、改善できる行動を、ワークシートに書く。	・自分の生活の中でも、僕のように自分でやるべきことを、家族にやってもらっているにもかかわらず、腹を立てていることはないか、考えるように展開する。
終末	この物語のテーマは何だと思いますか。	
	○授業全体を振り返り、生徒自身が考えた授業のテーマを記入する。	・板書を見ながら考えさせる。 ・生徒が記入した今回の授業のテーマを聞く。

(2) 道徳科の授業の方策

〈板書〉

生徒自身の考えが分かるように、名前カードを貼って可視化しています。考えの変容によって名前カードを動かすことで、自分自身の変容に気付くだけではなく、他の生徒の考えの変容の様子についても理解させることができました。次の板書は、授業の終末の板書です。導入では、僕に共感する生徒が多く見られました。



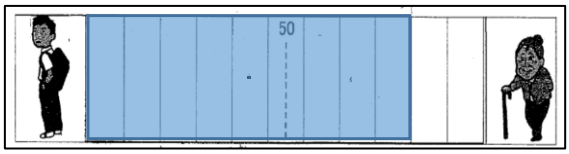
※ ▭は、名前カード

※ 板書の左側が祖母に共感する生徒
板書の右側が僕に共感する生徒

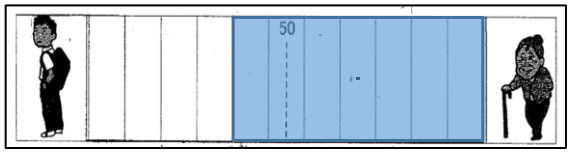
〈ワークシートの活用〉

導入で「どれくらい(主人公の)僕に共感しますか。」と発問しています。授業者は、ワークシートに示した次の図に色を塗らせました。僕に共感するときは、僕の方から色を塗り、祖母に共感するときは、祖母の方から色を塗ります。

(僕に共感)



(祖母に共感)



〈ポイントとなる発問〉【　】はつぶやき　※は活動　（T は授業者、C は生徒）

物語の前半を読んで、主人公の僕と祖母のどちらに共感し、なぜそう思ったのかを話し合わせました。次は、物語の後半を授業者が範読した後のやり取りからです。

T　:では、またプリントに戻って、さっきと同じ表（前ページの図）で、最後まで話を聞いた上で、（どちらに共感するか）塗ってください。塗ったら、僕は今後どのような行動を取るべきかも書いてください。
C　:※色を塗り、取るべき行動を記入すると、周りの生徒同士で意見交流を始める。
T　:では、気持ちが変わった人は、廊下側の２列から、順番に（名前カードを）貼り直しに来てください（☆1）。
C　:※多くの生徒が、名前カードを貼り直すために前に出てくる。
C1:【そんなに行くの。】
C2:【祖母寄り（祖母に共感する人）多すぎじゃん。】
C3:【おれ、絶対変わんない。】
C4:変わらない人は行かなくていいんですか？
T　:はい、変わらない人はそのままでいいよ（☆2）。
C3:【絶対、変わんないね。】
C　:※生徒は、他の生徒が名前カードを貼り直す姿を見ながら、意見交流している。
T　:（※生徒が全員、席に座ったところで） では、これ（名前カード）を動かしてみて、少しおばあちゃんに共感するに変わったかなって感じなんだけど、名前カードをなぜ動かしたのかを言ってくれる人いますか。
C　:※何人か生徒が発言する。
T　:はい、他ありますか？Ｃ５さん。
C5:物忘れがひどいおばあちゃんを受け入れなきゃ、だめだと。
T　:うんうん。物忘れを受け入れなきゃと。他ありますか？Ｃ６さん。
C6:（祖母は）自分では気付いていて、でも、僕はそのことに気付いていなかった。
C　:※何人か生徒が発言する。
C7:買い物とかすると忘れるだけだから、違う人に頼んだ方がいい。
C　:※この発言により、生徒がざわざわする。
T　:違う人に頼んだ方がいい？忘れるから。
C　:※発言に対して生徒同士で考えを話し合い始める。
T　:あと、あまり変わらなかった人いるかな。C8さん、動かなかった意見としてどうかな？（☆3）。

☆1～☆3のように、授業者は、考えが変容している生徒だけではなく、考えが変容しなかった生徒にも声を掛けています。考えが変容することが目的ではないことが生徒に伝わっています。

道徳科の評価では、一単位時間の中での変容を見取りますが、それは、始めと終わりの考えが変容しなければならないというわけではありません。考え、議論し、様々な生徒の考えに触れた結果、「やっぱり始めの考え方と変わらない」という場合も多くあります。考えが変容した理由を聞くだけではなく、変容しなかった理由についても授業者が問うことで、考えが変容しなかった生徒も自分自身を振り返ることにつながります。考えが変容しなかった自分自身に気付くことも、生徒の気持ちの変容と捉えられます。

〈評価〉

〈評価の視点〉
・自分の生活の中での改善点を記入できたか（ワークシート）。

〈ワークシートの記述からの見取り〉

確かに親に腹が立つことはたくさんある。自分も毎日親に腹が立っている。だけど、こういう毎日を過ごせるのは、親のお陰だし、なんだかんだ言って自分もたくさん迷惑をかけている。だけど、そんな自分を受け止めてくれるのは、親だけだし、助けてもらっているから感謝の気持ちを持ちたい。

道徳的価値の理解と今後の自分自身の改善点について記述しているところが評価できます。

（前略）絶対忘れてほしくないことや、大事なことはなるべく自分でするようにしました。「僕」は祖母に頼りすぎだと思います。

主人公の僕と自分を比較して考え、自分事として捉えているところが評価できます。

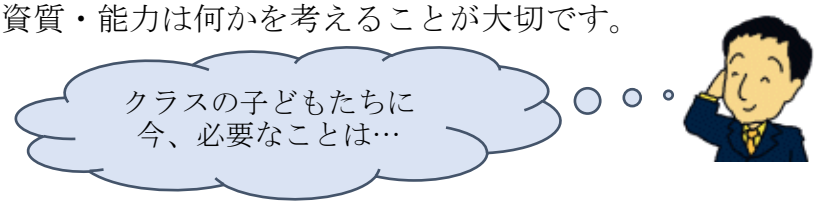
第4章　道徳科の授業の質的転換に向けて

1　授業実践の考察と研究の成果

道徳科の授業の方策である「授業のねらいの明確な設定」、「教材の吟味」、「発問の吟味」と「議論の場」（「考え、議論する道徳」を進めていくために大切なもの）に視点を置き、小・中学校の実践を行い、検証しました。

Ⅰ　授業のねらいの明確な設定

『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』及び『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』の「内容項目の概要」に示された道徳的価値を適切に捉える必要があります。そして、捉えた道徳的価値と関わっている児童・生徒の実態を照らし合わせ、今、目の前にいる児童・生徒に対して、道徳科で育成すべき最も必要な資質・能力は何かを考えることが大切です。



Ⅱ　教材の吟味

児童・生徒の実態から、今、道徳科で育成すべき最も必要な資質・能力を踏まえて、教材を多面的に吟味することが大切です。

Ⅲ　発問の吟味

発問の吟味で大切なことは、以下の点です。

- 授業のねらいに迫るための発問を中心発問にします。
- 授業の終末に行う振り返りの発問を、導入の発問と関わらせることで、一単位時間の振り返りを促します（導入の発問のキーワードを、終末の発問でも問うなど）。
- 一単位時間の発問と板書計画を合わせて考えることが有効です。
- 児童・生徒の多様な考えを引き出すために、授業者が多様な発問を準備します。

Ⅳ　議論の場

議論の場は、児童・生徒が多様な考え方、感じ方と出合い、交流する場です。交流する方法は、実践事例でも記したように様々あります。議論の場では、**何のために議論を行うのかを授業者が明確に意識することや、議論した後、児童・生徒自身の振り返りにつなげていくこと**が大切です。

また、効果的に議論の場を設定するためには、議論の前に児童・生徒に自分の考えを持たせる必要があります。そして、児童・生徒に考えることを促すために、議論の際にそれぞれの考えを可視化することが大切です。実践事例のように、板書の工夫により、考えが可視化されることで、議論の場が意義あるものになります。

「授業のねらいの明確な設定」、「教材の吟味」、「発問の吟味」の視点で、授業づくりを行うことで、小・中学校のどちらにおいても、効果を得ることができました。また、どの内容項目においても効果が得られる方策であることが分かりました。

２　今後の課題

今後は、道徳教育の要である道徳科の授業を充実させるために、児童・生徒が振り返りをして、自分自身を見つめられるようにしていくことが大切です。そのために、ノート指導の充実などが求められます。

ノート指導を充実させることで、児童・生徒は、毎時間積み重ねたノートの記述を振り返り、自分自身を客観的に把握し認識することができます。

これまで、各校で行っていた道徳科の授業を新たな視点で見直すことで、道徳科の授業の質的転換を図り、現在求められている「考え、議論する道徳」の授業の実現を目指して、本冊子を作成しました。

学校の教育活動全体で行う道徳教育の充実につなげ、児童・生徒一人ひとりに豊かな道徳性を育むために、御活用ください。

引用文献・参考文献

【引用文献】

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議　2016 「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf（2017 年１月取得）

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議　2016 「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）【概要】」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/08/08/1375482_1.pdf（2017 年１月取得）

文部科学省 2015　『小学校学習指導要領解説　特別の教科 道徳編』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_6.pdf（2017 年１月取得）

文部科学省 2015　『中学校学習指導要領解説　特別の教科 道徳編』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_8.pdf（2017 年１月取得）

【参考文献】

文部科学省 2014　『私たちの道徳　小学校五・六年』

文部科学省 2014　『私たちの道徳　中学校』

文部科学省 2015　「小学校学習指導要領」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/__icsFiles/afieldfile/2015/03/26/1356250_1.pdf（2017 年１月取得）

文部科学省 2015　「中学校学習指導要領」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/__icsFiles/afieldfile/2015/03/26/1356251_1.pdf（2017 年１月取得）

押谷由夫 柳沼良太 2014　『道徳の時代をつくる！―道徳教科化への始動―』教育出版

平成 27・28 年度研究「〈小・中学校〉『道徳教育の充実』を目指した道徳科の授業づくり実践事例集」の作成関係者

＜助言者＞

所属	職名	氏名	備考
昭和女子大学大学院	教授	押谷由夫	平成 27、28 年度

＜調査研究協力員＞

所属	職名	氏名	備考
綾瀬市立落合小学校	教諭	見上慎哉	平成 28 年度
小田原市立早川小学校	総括教諭	物部典彦	平成 28 年度
藤沢市立善行中学校	教諭	高原篤司	平成 28 年度
伊勢原市立山王中学校	総括教諭	櫻井綾子	平成 28 年度

＜神奈川県立総合教育センター＞

所属	職名	氏名	備考
教育課題研究課	指導主事	森本タエ	平成 27、28 年度
教育課題研究課	指導担当主事	田中恵美	平成 28 年度
教育課題研究課	教育指導員	篠原正敏	平成 27、28 年度
教職キャリア課	指導主事	山口穣	平成 27 年度

平成 27・28 年度研究
〈小・中学校〉「道徳教育の充実」を目指した
道徳科の授業づくり実践事例集

発　行　　平成 29 年３月
発行所　　神奈川県立総合教育センター
〒251-0871　藤沢市善行７－１－１
電話　(0466)81-1659（教育課題研究課　直通）
ホームページ　http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/

※本冊子については、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています

神奈川県

神奈川県立総合教育センター

善行庁舎
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1
TEL (0466)81-0188【代表】
FAX (0466)84-2040

亀井野庁舎（教育相談センター）
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4
TEL (0466)81-8521【代表】
FAX (0466)83-4500

ホームページ　http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp